実務経験のある教員等による授業科目の一覧

＜介護福祉科＞

開講年次 開講期	科目名 （授業の種類）	単位数	内容
２年次 前期	介護実習	５単位 （２５０時間）	介護の実体験を通して、学内での学習内容を統合させて、介護とは何かを理解・再確認し、それを実践する基礎的能力を習得する学びの場である。「介護過程」で学んだ思考過程のプロセスを実際の利用者を受け持つことにより実践する。利用者や実習指導者を始めとした介護職員と相談しながら、立案した介護計画に基づいた介護を提供し、自ら行った介護実践の評価や計画の修正が行えるようにする。
	合計	２５０時間	

※実習においては５０単位時間／単位とする

＜こども未来学科＞

開講年次 開講期	科目名 （授業の種類）	単位数	内容
２年次 前期	保育実習Ⅰ （保育所）	２単位 （８０単位時間）	主に見学・参加実習を通して、実習保育所等の職員の役割や環境構成を理解し一日の保育の流れと保育所における子どもの行動を理解する。 また、実習施設状況や、実習生の力量に応じて部分実習等の指導実習を経験することも想定する。そして、保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
２年次 前期	保育実習Ⅰ （保育所以外）	２単位 （８０単位時間）	主に見学・参加実習を通して、実習施設等の職員の役割や環境構成を理解し、一日の施設等の流れと施設等における子どもや利用者に対しての理解を深める。 また、実習施設状況や、実習生の力量に応じて部分実習等の指導実習を経験することも想定する。そして、それぞれの実習先の特色、独自の運営・管理の特徴や実態の理解、現場で抱える福祉問題などについて理解を深める。
	合計	１６０時間	

※実習においては４０単位時間／単位とする

＜歯科衛生士科＞

開講年次 開講期	科目名 （授業の種類）	単位数	内容
	臨床実習	２年次 後期	口腔保健の専門職として、学内で習得した知識・技術・態度を臨床の場において、実践できる能力を身につける。 臨床実習マニュアルに即し、学生個人の能力・成長に合わせた内容で患者さんに接することができるもの。 Ⅰ期＝1～3サイクル（冬休み前まで） 目標： 歯科衛生士業務の基本を学ぶ。（患者対応・環境整備など） 患者の主訴を把握し治療の流れを理解する。 内容： 臨床で歯科衛生士業務の基本的な内容を見学し、その日学んだ内容を記録する。 （受付・問診・主訴の把握・治療開始の流れ・予約の理解や日常的に行われる診療の流れや手順の理解） Ⅱ期＝4～５サイクル(2年生終了まで) 目標 ： 患者誘導・感染予防の実践・指示された器材の準備・環境整備が行うことができる。簡単な業務を行うことができる。 内容 ： 患者さんに合わせた誘導・準備・片付け、歯科材料の正しい取扱い、簡単な受付業務、予防処置、保健指導、診療補助の業務
合計		４５０時間	

シラバス

（介護福祉科）

授業のタイトル（科目名） 介護実習Ⅱ	授業の種類 講義　演習　(実習)	時間数（単位数） ２５０（５単位）	配当学年・時期 ２年次・前期
授業担当者／畠山　友子 現場指導者／実習指導者	介護老人福祉施設及び通所介護に、介護福祉士、生活相談員、介護支援専門員として１０年、実務経験のある教員が担当	(必修)　選択	

〔介護実習の目的〕

（１）統 合

学内で学ぶさまざまな科目の内容は、社会福祉制度や生活援助、利用者の理解に関する知識や概念である。それらは利用者の生活に関わる一部分の知識や概念である。それらは関連付けられ、統合化されなければ実践的に活用できない。それらを統合する場が実習である。

実習で出会う利用者は、心身機能に障害があり、社会福祉制度を利用し、さまざまな生活ニーズを持ち生きている「個人」である。その「個人」を理解し、その「個人」の生活を少しでも改善しようとするためには、多くの知識や技術を統合的に活用する必要がある。

（２）価値観、倫理観

援助を行うとき、何を目指して行うのかを真摯に考察する必要がある。さらに、援助を展開するときにどのような原則に基づいて援助を行うのか考察する必要がある。また、介護福祉士が提供する援助の質は、個別の利用者の生活の質を規定する要因となる。すなわち介護福祉士には高い職業倫理が求められる。

（３）専門的技能

技能は技術の知識を基にし、実際に体験を重ねる中でしか獲得されない。その体験の場が実習である。学内での演習は原則的な学習である。実際に援助を必要としている利用者は具体的な個人であるため、個別の利用者に必要な介護は個別に存在する。実際の介護は個人である利用者と個人である介護福祉士の関係を土台にして展開される。そこで展開される技能は全く個別のものにならざるを得ない。介護福祉士にとっての介護の技能は、専門職としての自己を表現する技能である。

（４）課 題

学内でさまざまな科目の授業を受け、各時点での自己の能力の過不足は、実際に援助を実施してみなければ分からない。その体験の場が実習である。学生は利用者に関わり、援助を体験し、個別援助計画を検討する中で、自分の能力の過不足を知ることができる。これはその後の学習課題を明らかにする。

（５）自己覚知

介護という行為は、介護を行おうとする介護福祉士の知識や技能、人格的諸力、体力などを活用して行われる。援助の質は利用者と介護福祉士の関係の質にも大きく影響される。関係が不良であれば、いかに知識や技能が優れていても適切な援助はできない。具体的には利用者と向かい合い、自分の感情や意識がどのように動くかを認識し、検証することが必要である。

（６）連 帯

利用者のニーズの多様化に伴い、さまざまな職種が利用者の生活を支えている。その中でも介護福祉士は、利用者にとってもっとも身近な存在といえる。利用者の望むその人らしい生活の実現のため、他職種の理解を深め、多職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割を理解する必要がある。

〔実習の学習課題〕

（1）介護福祉活動における価値（尊厳、自立支援、自己実現）、目標についての認識を深める。

（2）利用者の心身の状態を把握する能力を深める。

（3）学内での学習を基礎に利用者のニーズを発見する能力を高める。

（4）利用者と援助関係を構築する能力を養う。

（5）介護過程が展開できる能力を養う。

（6）多職種と連携し、協働する能力を養う。

（7）施設･事業所運営のあり方の考察を深める。

（8）専門職にふさわしい価値観と倫理観を育てる。

（9）記録能力を高める。

〔介護実習計画〕

① 実習時間　2年次２５０時間以上

② 実習形態及び期間

学　年	期	実習形態	基準時間（期間）	施設・事業等
2年次	第4期	実習（Ⅱ）	２５６時間（１日８時間　３２日間）	老健・特養

〔介護実習の内容〕

（1）実習目標

個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするためのアセスメント、介護計画の作成、実施、評価、修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービス提供の基本となる実践力を習得する。

（2）実習課題

① 利用者個々の生活リズムや個性に応じた生活支援のあり方を理解する。

② 一連の介護過程の展開を実践（生活課題の明確化・介護計画の立案・実施・評価）する。

③ 基本的な介護技術を熟練する。

④ 多職種との連携、協働のあり方を学ぶ。

⑤ ターミナルケアの理解を深める。

⑥ 介護福祉士を目指す者として専門性のあり方を追及する。

⑦ 地域と施設や事業所との連携について理解を深める。

〔評価の観点〕

点　数	内　容	
５点	できる	（意欲的に行動できており、指導内容を活かせている）
４点	ややできる	（意欲的に行動・指導内容を実践のどちらかができている）
３点	ふつう	（実習生として最低限の意欲、取り組みができている）
２点	努力を要する	（実習に対する意欲があまり見られず、取り組みも消極的である）
１点	できていない	（実習生としての心構えができていない、要指導が必要）

〔使用テキスト・参考文献〕

『介護総合演習・介護実習』中央法規出版

『介護実習要綱』オホーツク社会福祉専門学校

『介護実習指導者テキスト』日本介護福祉士会

〔単位認定の方法及び基準〕

別紙実習評価表に基づき評価 。評価表合計１１０点を１００点満点に換算し、８０点以上を優、６０～７９点以上を良、５１～５０点以上を可、５０点以下を不可とする

別紙

介護実習（Ⅱ）指導者評価表

実習生氏名	実習期間 自　令和　年　月　日 至　令和　年　月　日	欠席　回 遅刻　回 早退　回

Ⅰ　利用者の理解	点　数
①利用者の状態を観察することができる。	
②利用者の生活上の不自由さを具体的に理解することができる。	
③利用者の生活背景、心身状況など全体像を理解することができる。	
合計点	

Ⅱ　対人援助の基本的態度（コミュニケーション含）	点　数
①受容と共感的態度を基盤とし、かかわりを深めることができる。	
②利用者の主体性に尊重した働きかけができる。	
③障がいに対応したコミュニケーションを図り、個別支援につなげることができる。	
合計点	

Ⅲ　生活支援技術	点　数
①利用者に適した介護方法を考え、適切な介護を実践できる。	
②介護を必要とする人の意欲を引き出す生活支援を行うことが理解できる。	
③尊厳と自立した生活を支える適切な介護技術について、自分の言葉で説明できる。	
合計点	

Ⅳ　施設機能の理解	点　数
①利用者を取り巻く社会の支援体制が理解できる。	
②施設のサービス全般と社会的役割を理解できる。	
③地域社会における施設の役割を理解できる。	
合計点	

Ⅴ　チームワークと連携	点　数
①介護職員や関係職種と連携・協働できる。	
②介護過程の展開を通し、チームワークの在り方を理解できる。	
③疾患がある利用者に対する医療職との連携を理解できる。	
合計点	

Ⅵ　介護過程	点　数
①介護に必要な情報が収集でき、情報の解釈と関連づけ、生活課題を明確にできる。	
②介護過程を展開し、利用者および個別ケアの在り方を学ぶことができる。	
③利用者や他職種とともに介護計画を立案できる。	
④介護目標の達成や援助内容が適切であったかを評価できる。	
合計点	

Ⅶ　倫理と態度	点　数
①実習生としての立場をわきまえ、礼儀正しく謙虚な姿勢で実習ができる。	
②人間としての平等・尊厳・人権尊重をする介護を具体的場面で実践できる。	
③介護専門職であることを自覚し、行動できる。	
合計点	

実習指導者意見

実習施設名

令和　年　月　日　指導者　　㊞

※評価基準　評価は次の通りとする。

5点：できる　4点：ややできる　3点：ふつう　2点：努力を要する　1点：できない

(こども未来学科)

授業のタイトル（科目名） 保育実習Ⅰ（保育所）	授業の種類 実習 （講義・演習・実習）	実習先担当者 指導が適当とされる保育士 学校担当者　川野　千枝
幼稚園に10年以上、保育園に10年の実務経験のある教員が担当		
時間数(単位数)　８０（２）	配当学年・時期　２学年	(必修)・選択

[授業の目的・ねらい]
保育実習は、その修得した教科全体の知識、技能を基礎都とし、これらを総合的に実践する対応能力を養うために、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする。
また、保育所の役割や機能を具体的に理解する。

[授業全体の内容の概要]
主に見学・参加実習を通して、実習保育所等の職員の役割や環境構成を理解し
一日の保育の流れと保育所における子どもの行動を理解する。
また、実習施設状況や、実習生の力量に応じて部分実習等の指導実習を経験することも想定する。そして、保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
１．保育所の役割や機能を具体的に理解する
２．観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める
３．外周の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的学ぶ
４．保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する
５．保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する

授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

（１）見学・観察実習（１～３日）
・実習保育所等の職員の役割や環境構成を理解する。
・一日の保育の流れと保育所における子どもの行動を理解する。
・子どもの行動（個別及び集団）を観察する。
・緊急の際の避難経路を確認する。等

（２）参加実習（４～７日）
・子どもと活動をともにして、一日の生活の内容を体験する。
・子どもと生活をともにしながら保育士の補助的な立場をとり、保育士としての態度や技術など
を習得する。特に、子どもの安全面、衛生面の配慮の仕方を学ぶ。
・養護と教育が一体的に行われることを理解する。
・保育士等の職務内容に応じた役割分担およびチームラークについて学ぶ。
・子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。

（３）指導実習（部分実習）（８～１０日）
・短時間の指導計画を担当保育士等の指導をもとに立案し、実践する。
・全体的な計画及び指導計画の意義を理解し、保育内容関連科目で習得したことを生かして実践する。

[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領	[単位認定の方法及び基準] ・実習先評価　（８０%） ・巡回時の所見（２０%） 優80以上　良60～79　可51～59　不可50以下

○保育実習評価基準

【実習先評価表】

項目	評価の内容	評価　（実習生として）				
		非常に優れている	優れている	適切である	やや努力を要する	努力を要する
態度	意欲・積極性（受動的ではなく主体的に実習に臨む）	５点	５点	４点	３点	２点
	責任感（日誌・指導案の提出や仕事に対する責任感）	５点	５点	４点	３点	２点
	探究心（創意・工夫・より良いものを求める姿勢）	４点	４点	３点	２点	１点
	協調性（対人関係における言動、礼儀や気遣い）	５点	５点	４点	３点	２点
知識・技能	子どもの実態把握・発達理解	５点	５点	４点	３点	２点
	一人ひとりの子どもへの対応	４点	４点	３点	２点	１点
	保育技術の展開	３点	３点	３点	２点	１点
	指導計画立案と準備・教材研究	４点	４点	３点	２点	１点
	実習日誌の記録（保育の読み取り、振り返りができる）	５点	５点	４点	３点	２点
	保育士の役割の理解 （保育士の職業倫理、チームワーク、子どもの最善の利益の理解、保護者とのかかわり、地域社会との連携等）	５点	５点	４点	３点	２点
	自己課題の明確化	５点	５点	４点	３点	２点
総合評価		３０点	２８点	２６点	２２点	２０点

【巡回時所見】

積極的に実習に取組み、提出物の遅れ・遅刻欠席がない	２０点
概ね主体的に実習に取組み、提出物の遅れ・遅刻欠席がない	１７点
概ね主体的に実習に取組み、提出物の遅れ・遅刻欠席が1回以内である	１４点
やや受動的な取組みである。提出物の遅れ・遅刻欠席が2回以内である	１１点
実習に対しての意欲が見られず、提出物の遅れ・遅刻欠席が3回以上ある	８点

＜総合計点数＞

優80点以上　　良60～79点　　可51～59点　　不可50点以下

授業のタイトル（科目名） 保育実習Ⅰ（保育所以外）	授業の種類 実習 （講義・演習・実習）	実習先担当者 指導が適当とされる保育士 学校担当者　斉藤　茜

養成校にて５年の実習指導の実務経験がある教員が担当

時間数(単位数)　８０（２）	配当学年・時期　２学年	(必修)・選択

[授業の目的・ねらい]

学校で学んでいる子ども観や保育観、講義等で習得した知識・技術・技能を実習という体験を通して、はじめて具体的に総合的に学生自身の身につけ、これから更に学ばなければならない技能を実習現場の指導によって深く学びとり、保育士として必要な資質・能力・技術の習得を目的としている。
また、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。

[授業全体の内容の概要]

主に見学・参加実習を通して、実習施設等の職員の役割や環境構成を理解し、一日の施設等の流れと施設等における子どもや利用者に対しての理解を深める。

また、実習施設状況や、実習生の力量に応じて部分実習等の指導実習を経験することも想定する。そして、それぞれの実習先の特色、独自の運営・管理の特徴や実態の理解、現場で抱える福祉問題などについて理解を深める。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

１．実習という現場体験をすることによって、現実の「福祉」の意味を知る。
２．実習を通して、学内で習得した専門的知識・技術・技能を追体験する。
３．実習を通して、学ばなければならない理論、身につけなければならない技術を理解する。
４．実習を通して、自己の資質や能力を見直し、より一層の向上を目指す。
５．保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

①施設の役割と機能
ア　施設の生活と一日の流れ　　イ　施設の役割と機能

②子ども理解
ア　子ども（利用者）の観察とその記録
イ　個々の状態に応じた援助や関り

③養護内容・生活環境
ア　計画に基づく活動や援助
イ　子ども（利用者）の心身の状態に応じた援助
ウ　子ども（利用者）の活動と生活の環境
エ　健康管理、安全対策の理解

④記録と計画
ア　支援計画の理解と活用　　イ　記録に基づく省察・自己評価

⑤専門職としての保育士の役割と倫理
ア　保育士の業務内容　　イ　職員間の役割分担や連携
ウ　保育士の役割と職業倫理

[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領	[単位認定の方法及び基準] ・実習先評価　（８０%） ・巡回時の所見（２０%） 優80以上　良60～79　可51～59　不可50以下

施 設 実 習 評 価 表

【実習先評価表】

実習評価項目		評価				
		秀	優	良	可	不可
実習態度	責任感	5点	4点	3点	2点	1点
	協調性	5点	4点	3点	2点	1点
	積極性	5点	4点	3点	2点	1点
	礼儀(言葉づかい、態度)	5点	4点	3点	2点	1点
	探究心	5点	4点	3点	2点	1点
基礎技術	施設への理解と知識	5点	4点	3点	2点	1点
	個人指導への配慮	5点	4点	3点	2点	1点
	集団生活への配慮	5点	4点	3点	2点	1点
	生活環境への配慮	5点	4点	3点	2点	1点
	指導内容の理解	5点	4点	3点	2点	1点
総合評価		30点	25点	20点	15点	10点

【巡回時所見】

積極的に実習に取組み、提出物の遅れ・欠席がない。	20点
概ね主体的に実習に取組み、提出物の遅れ・遅刻欠席がない。	17点
概ね主体的に実習に取組み、提出物の遅れ・遅刻欠席が1回以内である。	14点
やや受動的な取組みである。提出物の遅れ・遅刻欠席が2回以内である。	11点
実習に対しての意欲が見られず、提出物の遅れ・遅刻欠席が3回以上ある。	8点

＜総合計点数＞

優80点以上　良60～79点　可51～59点　不可50点以下

（歯科衛生士科）

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
臨地・臨床実習	2	後期	実習	１０単位／４５０時間	２２５

担当教員名	開講の曜日・時間帯	担当教員の access
大串　瑠菜 臨床実習担当指導者他	月曜日～木曜日（１講目～４講目）1日６時間の実習	0157-33-1316

歯科医院における臨床経験が４年ある教員が担当

１．一般目標と到達目標

＜一般目標＞

歯科衛生業務を修得するために、歯科診療の場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術および態度を身につける。

＜到達目標＞

①対象に応じて配慮した対応ができる。
②対象者の守秘義務を遵守できる。
③診療室のルールを理解した行動ができる。
④医療安全管理に配慮した行動ができる。
⑤器材、機器および薬品の管理の方法を理解した行動ができる。
⑥歯科医師からの指示内容を理解し、実践できる。
⑦スタッフ（多職種を含む）と連携した共同動作、必要なサービスが実践できる。

２．授業の進め方（授業の方法）

歯科医院、病院歯科での実習

３．教科書

４．参考図書・資料

５．授業心得

・爪、頭髪等の身だしなみを整えて臨むこと。
・アクセサリー、時計ははずす。
・社会的なマナーを身につけて臨む。
・早めの行動をとる

６．評価の方法

＜臨床実習評価表　Ⅰ・Ⅱ＞ 各項目の５段階評価

・実習評価100%

5	良くできる	指導助言がなく自分の力でできる
4	できる	時々、助言があればできる
3	普通	言われたことはできるが発展性がない
2	やや劣る	指導、助言を受けてもあまりできない
1	劣る	指導、助言を受けてもできない。意欲が感じられない

7．その他（実習に必要な物）

・臨床実習マニュアル　、実習記録用紙、スケーラーセット、顎模型、鉛筆、筆記用具

年間授業計画

	修　復　主　題	修　復　内　容
1～3サイクル	臨床実習（歯科医院を実習）	診療室での歯科衛生士の業務を実習する。臨床で歯科衛生士業務の基本的な内容を見学し、その日学んだ内容を記録する。 （受付・問診・主訴の把握・治療開始の流れ・予約の理解や日常的に行われる診療の流れや手順の理解）
４～5サイクル	臨床実習（歯科医院を実習）	患者さんに合わせた誘導・準備・片付け、歯科材料の正しい取扱い、簡単な受付業務、予防処置、保健指導、診療補助の業務

計７５日間

評価表

学籍番号		氏　名	
期　間	令和　　年　　月　　日 ～ 令和　　年　　月　　日		
学習テーマ「歯科衛生士業務の現場を学ぶ」			
①概要を知る→　②内容を理解するために調べ、まとめる→③簡単な業務が行える			

項目		内　容	指導者評価	自己評価
社会性Ⅰ	身だしなみ	髪の毛は顔にかからないように清潔にまとめている		
		爪は短くし、マニュキュア、ペディキュアは塗布しない		
		装飾品は一切身につけない		
	礼儀	明るい挨拶やはっきりとした返事、自己紹介ができる		
		対象者に適した言葉遣いができる		
		実習施設への登院時間を厳守でき、欠席遅刻の場合、電話連絡ができる		
		指導や助言を謙虚に聞き、自身の問題として認識することができる		
		実習中と実習時間外とのけじめがついた言葉遣いや行動ができる		
		忘れ物がない		
		体調を整え自己管理ができる		
社会性Ⅱ	協調性	患者やスタッフとのコミュニケーションを図ることができる		
		実施した業務の報告・相談をすることができる		
		実習施設でのマナーやルールを遵守できる		
		患者の話を傾聴できる（表情が穏やかな笑みを心がけている。相手に体を向け、視線を合わせる。など）		
	積極性 学習意欲	自発的に学習施設の計画に合わせた行動ができる		
		疑問や不明な点を自ら調べて質問ができる		
		意欲的に臨むことができる		
		実習記録をよく整理された状態で期日までに提出できる		
		必要な時に適切に指導を求めることができる		
		常に安全を配慮した業務ができる		

評価者からのコメント（知識・技術も含む）

学習テーマ「歯科衛生士業務の現場を学ぶ」				
①概要を知る→　②内容を理解するために調べ、まとめる→③簡単な業務が行える				
項目		内　　容	指導者評価	自己評価
基礎的知識		オリエンテーションが理解できている		
		清潔、不潔の区別ができている		
		さまざまな歯科衛生士業務を知っている		
		日常的に行われている診療の流れや手順を理解できている		
		歯科材料や薬品の種類と使用目的等が理解できている		
		歯科診療用器材について理解できている		
		指導者からの課題レポート （　　）		
基礎的テクニック（技能）	歯科診療補助	患者さんに合わせた誘導ができる		
		簡単なチェアサイドワークが行える		
		準備、後片付けができる		
		適切なライティングができる		
		歯科材料の取り扱いが正しく行える		
		簡単な受付業務ができる（保険証の内容を述べる）		
		使用器具・器材の消毒・滅菌ができる		
		エックス線写真撮影の準備と現像ができる		
		セメントの取扱いができる		
		印象材の練和とトレーに盛り上げることができる		
	歯科保健指導	実習施設で使用されている口腔清掃用具の種類や使用目的を知っている		
		抜歯後の注意が指導できる		
		各種ブラッシング法を述べる		
		ブラッシング指導を聞きとる		
		歯磨剤の使用目的を述べる		
		補助器具の使用目的を述べる		
		食生活習慣、生活習慣指導を聞きとる		
	歯科予防処置	口腔内審査の記録ができる		
		プロービングやスケーリング、ＰＭＴＣなどの術式を述べることができる		
		う蝕予防の術式を述べることができる		
		フッ化物配合歯磨剤の効果を述べる		
		手用スケーラーの操作時の注意点を述べる		
		正常な歯肉と病的な歯肉との区別ができる		
合計点数				